

忘れないよ、おはあちゃん味の

下黒瀬小学校

四年 山中 大輔

ぼくは、お米が大好きです。白いご飯はもちろんですか、中でも、ひいおはあちゃんのお作ってくれた散らし寿司、いなり寿司が大好きです。

お母さんのおはあちゃんである、ぼくのひいおはあちゃんは、お盆やお正月、会いに行きた時には、散らし寿司、いなり寿司をたくさん作って食べさせてくれました。ごぼう、

れんこん、こんにゃく、人参、かしわ、こしょうや豆腐、しいたけなど、細かく切って味付けをし、ご飯と混ぜていました。いなりも、自分で味付けしていて、甘くて美味しかったです。

そんなおはあちゃんですが、数年前に病気を患い、手術をしました。治りよりの薬を飲みながら、体調が優れない日々が続きました。それでも、家族のために、毎日台所に立ち、ご飯を作っていたそうです。

病気になっ てからおばあちゃんは、ほくた  
ちが会いに行くと、

「これが最後じゃ。」

と言いい、散らし寿司、いなり寿司を出して食  
べさせてくれました。それが何回続いたでし  
ょう。

今年のお正月、おばあちゃんに会いに行く  
と、いつものように散らし寿司、いなり寿司  
を作っ て待っ てくれていました。

「夜中の一時から起きて、ババ作っ た人よ。」

と、みんなで会えた事を喜んでくれていまし  
た。この日は、おばあちゃんの誕生日で、に  
ぎやかに楽しく、おいしく食べました。

しかし、五月に入り、おばあちゃんは倒れ  
てしまい、三日後には、天国へいっ てしま  
いました。

「これが最後じゃ。」

とみんなのために、心をこめて作っ てくれ  
いたおばあちゃんの散らし寿司、いなり寿司  
は、本当にもう食べられなくなっ てしまいま

した。

「おばあちゃん、十年間、たくさん散らし寿司、いなり寿司を作って食べさせてくれてありがとう。これからも、ご飯をしっかりと食べて、大きくなるからね。天国で見守っていてね。」

「ぼくは、おばあちゃんの事、そして、おばあちゃんの仕事、おばあちゃんの手で散らし寿司、いなり寿司の味を忘れません。」